

（能登北部・中部医療圏）

- ・ 公立能登総合病院では、現在、急性期としている病棟54床について、回復期リハビリテーション病棟に機能転換することを考えている。今後、高齢化が進むことで患者が増えることが予測されることから、十分なリハビリをして地域に帰ってもらうためにも、必要実態に即した病棟機能にしたい。
- ・ 今後、高齢者施設で誤嚥性肺炎などで急変される方も増えてくると思うが、挿管を必要としない方については、軽度急性期に分類するという考え方でよいと思う。
- ・ 医療機能を整理するにあたり、結果的に軽症の患者であっても、初診においては急性期病棟に入れ、その上で診断した上で、軽度急性期の病棟に移すという流れがあることを全員が認識を統一する必要がある。